

嵯峨流藤舞会から町に善意



福祉向上にと10万円を贈る

7月30日、日本舞踊の嵯峨流藤舞会（北田美津子会主）が町に10万円を寄付しました。町内外約60の企業・団体の協賛により7月22日に町中央公民館で開催した嵯峨流藤舞会チャリティー公演の益金を贈ったもので、贈呈式には北田会主ら4人が役場を訪問。北田会主が「町の福祉のためにお役立てください」と沼崎喜一町長に寄付金を手渡しました。これに対し沼崎町長は「ありがとうございます。町のため大切にに使わせていただきます」とお礼の言葉を述べました。

イラスト



みんなのスペース



たむら ちなりちゃん
(轟木児童館・5歳)

わたしのゆめ

大きくなったらくしー屋さん
になって、大好きなマンゴーク
しーをたくさん作りたいな。

古里への便り 28



埼玉県さいたま市
湊 邦男さん(72歳)
〔中央町出身〕

私は中央町の出身で湊邦男と申します。高校は宮古の水産高校で野球部に所属していました。大学は明治学院大学を卒業。それから55年、現実の荒波と闘い家族と共に頑張ってきた。現在は東京近郊の浦和に親子二所帯住宅でゆったりと老後を迎えています。72歳になりふるさと山田を想うたび、自分の少年時代が鮮明に浮かんできます。海、山を駆けまわり楽しい毎日でした。山田は私の懐かしい故郷です。

郷です。私はある時偶然にも図書館でオランダ船ブレスケンス号の山田湾入港に関する文献を発見し、読み終えた時大変驚嘆しました。1643年(360年前)6月10日、乗組員44名、兵士15人を乗せた大型船ブレスケンス号が朝霧の中、山田の大浦にやってきた。オランダの乗組員から見れば山田浦は太陽の下に輝く神秘的な場所に見えたに違いない。若いときから絵を描いたり、シナリオとか歴史小説を書いたりするのが好きで、数年前この史実をもとにフィクションを交えて大衆文学調に小説「海境を越えて」を書きました。



湊さんが描いた油絵「飛沫に翔ぶ」

投書

どんなことでも結構です。
どっぴちお寄せください。

山田よここ好きなの(10)

千体仏様の山すそから、細々した関口川の源流に沿って下つてくると、やがて潤地(山あいのやや拓けた処)に出る。ここはその昔、出羽、羽黒山の法印が不動明王を拝して開いたといわれる修道の神聖な場所、お不動さん奥の院である。

ここまで下つてくれば川の水かさが増して、サラサラ流れ下る清流のせせらぎが、静かな佇まいの中で瀬音となつて聞こえ、四季を通じて深山の風雅を楽しませてくれる。初夏の緑に覆われた山あいの流れ、誰もが川べりまで降りて水に触れたいくなる。そのさわやかな感覚が心の芯まで癒してくれる。

ここには千体仏様の遥拝所もあり、年老いた身の今はここから皆さんたちと一緒に遙拝している。外山を下り、里山に囲まれているどかな里野の田園風景に包まれる関口、関谷へ来るとたくさんのお神仏がまつられている。(続く)

ペンネーム・山田北州

ちびっ子踊り子に涙

船越半島東南に源頼基をまつる荒神社があり、境内に頼基をまつる霊廟がひっそりと立っている。その祭典が7月28日、引

月夜の夏まつりを満喫

歩き、それに続く観衆の雑踏にも驚いた。踊り子にはあどけないうちびっ子たちが多いのを目にし、つい涙にむせてしまった。このようにして幼いころから民俗芸能が受け継がれていくことにうなずけた。

疲れも見せず踊り終えたちびっ子たちは、夕刻でんでにチップを手にし、両親の元へと散っていった。

齋藤忠雄(船越・81歳)

布ぞうり作りに挑戦

昨年の定期総会で、上林社会福祉協議会理事長から「会員を増やすには、目に見える形での地道な活動が必要だ」と祝辞の中でアドバイスを受けました。ならばと布ぞうり作りを思い付き、本を頼りに試行錯誤を重ねました。また、保健師さんから紹介された方による講習会を開き、いろいろ話し合いました。

昨年8月に定例会を開き、布分けしながら会員の技術向上と研鑽に努め、同年11月の文化祭に出展しました。わたしたちは売ることとはつゆほども思っていないけれど、福祉バザーではたくさん売れました。山田人つてとても心優しい人がいっぱいいるんだと感じました。

のんびり会会長 藤原茂美

朝顔のいろは見えねど朝々に
花の感触両の手に見ゆ

菊地孝進(船越・85歳)

老いた母すつかり瘦せて無表情
生きる夢見せ介護の孝行

大川ヒメ子(大沢・63歳)

朝飯の膳に初物焼き秋刀魚
大根おろしの白く映ゆるも

ペンネーム・夢子

夢くれて静かにさりぬ精霊よ
花火とともに灯す送り火

大町テイ子(大沢・?)

きみまろにお座敷広場大笑い

佐藤兼男(荒川・?)